

みんなのた場



体操で健康を維持

高橋みつをさん 100歳
(桃生・神取地区)

高橋みつをさんは明治45年、現在の北上町十三浜に8人兄弟の長女として生まれました。生家は地元の名家で、結婚前は田んぼに出たこともないくらいのお嬢様として育てられたそうです。

尋常小学校から高等小学校へ進み、卒業後は他の兄弟の世話をして過ごしました。20歳の時、親戚の紹介で桃生町神取の高橋清一郎さんと結婚、2男5女を授かりました。嫁ぎ先では慣れない畑仕事に苦労しましたが、働きの義父や夫と力を合わせ一生懸命に働いたそうです。夫の清一郎さんは旧桃生町時代の議会議員を務め、みつをさんは町のために尽くす夫を陰で支え続けました。

3年前に転倒して入院するまで毎日日記を書き、4人のひ孫をベビーカーに乗せて散歩したりしていました。現在はベッドでの生活



▲亀山市長から祝詞を受け喜び高橋さん

活となりましたが、3度の食事もしっかり食べて元気に過ごしています。長男伸藏さんの妻みね子さんが作る食事が「元気の源」で、特に刺身が好物です。友人たちと会っておしゃべりできる週1回のデイサービスを楽しみにしています。その日はお気に入りの洋服に着替えて出掛ける等、身だしなみにも気を配っています。テレビを見ながらの体操も欠かさず、健康を維持。100歳を迎えたみつをさんは「いつも周りの皆さんに感謝しています」と笑顔で話していました。

震災で大きな被害を受けた雄勝地区。平成9年から活動を続けてきた雄勝ちぎり絵サークル(杉山千代子代表)も活動休止を余儀なくされましたが、昨年11月、会員たちの強い思いで教室を再開させました。今野あき子さん(成田)の指導の下、現在は10人の会員が月1回、ビッグバンドでの創作活動に励んでいます。同団体の活動は、雄勝公民館の生涯学習の一環としてスタートしました。当時は富田憲子さん(中里)と今野さん、西條禮子さん(相野谷)の3人が20人を超える生徒に手ほどきしていたそうです。台紙に和紙を

サークル仲間 63

震災に負けず活動再開 楽しい時間が心の支えに

雄勝ちぎり絵サークル



▲雄勝ちぎり絵サークルのみなさん。前列右が杉山代表

何層にも重ね表現していくちぎり絵は、さながら油絵

のような雰囲気を感じ出しています。震災でサークルの仲間2人が犠牲となりました。ちぎり絵が何よりも好きだった、かけがえのない仲間でした。ほかの会員も全員が被災し、仮設住宅等で、自由な暮らしが続いていません。

そんな中で、教室の再開は、会員たちが待ち望んでいたもの。震災前と同じようにみんなで集い、楽しく活動できる時間は会員たちの心の支えとなっています。「みんなに会える教室の



▲会員にいていないに指導する今野さん(右)

日がとても楽しみ」と語る杉山代表。活動再開を応援してくれた全国のちぎり絵仲間にも深く感謝します。7月にはせんだいメディアテークで開かれた「第23回全国和紙ちぎり絵仙台サークル展」に出品する等、他の地域の仲間たちと関わりながら技術の向上を目指しています。

杉山代表は「これからも、今野先生やみんなと一緒に楽しく活動していきたいです」と笑顔で抱負を語っていました。

投稿募集

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとおきの話をお寄せください。

テーマ 「ありがとう」

日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課あてにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するものなどやスペースの関係上、投稿いただいたものを掲載できるものではありません。また、字数などの関係で内容を調整させていただくことがあります。

問 秘書広報課(内線4025)

〒986-8501(住所不要)

Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題

石巻地区

海を越えた 友情の証し

6月21日(木)
サン・ファン館



震災等で破損したサン・ファン・パウティスタ号のマストに使用する木材が、渡波のサン・ファン館に届けられました。長さ約10-16mの松4本、杉1本で、サン・ファンパークの屋上に搬入されました。林業が盛んなカナダ・ブリティッシュコロンビア州の製材会社から寄せられたもので「日本とカナダの友情の証しになることを期待したい」とカナダ林産業審議会のショーン・ローラさん。同館ではこれを活用して復旧作業を進め、慶長遣欧使節船出帆400年を迎える来年秋までの再オープンを目指しています。

石巻地区

スロバキア大統領 が児童と交流

6月26日(火)
門脇中学校



東欧のスロバキア共和国からガシュパロビッチ大統領夫妻や政府関係者等が来日し、被災地を視察しました。大統領夫妻は日和山を訪れ、津波で甚大な被害を受けた門脇、南浜町周辺を視察。続いて門脇小学校が授業を行っている門脇中学校を訪れ、スロバキアからの手紙や支援金を門脇小の佐々木校長に贈呈。スロバキア出身のチェリスト、ヘンリ・タタルさん(仙台フィル所属)が母国の曲を演奏。児童たちは合唱やフルートで感謝の気持ちを届けました。